

当院での、閉塞性大腸癌に対する術前大腸ステント・経肛門イレウス管留置に関する研究

1：対象

2013年1月から2018年12月の間に、当院で閉塞性大腸癌と診断され、術前に大腸ステントまたは経肛門的イレウス管を留置する治療を受けられた方。

2：目的

閉塞性大腸癌の術前の腸管減圧方法として、2013年の保険収載以来、従来の経肛門イレウス管に代わって大腸ステントが広く用いられています。閉塞の解除率が高く、ステント留置後の手術の際、人工肛門なしで切除吻合できる例も増加しています。しかし大腸ステント留置後の手術は、手術までの期間、術後の成績などまだ不明な点が多く、今後の検討課題となっています。そこで当院で閉塞性大腸癌に対し大腸ステントまたは経肛門イレウス管を留置された方の経過について調べ、この治療法の有用性、妥当性を検討します。

3：研究に用いる試料、情報の種類

日常診療の範囲内での情報（年齢、性別、留置ステント、狭窄長、手術までの日数、術式、術後経過、周術期合併症、再発時期、等）を電子カルテから収集します。本研究は日常診療で得られる情報をもとに、電子カルテから診療情報を収集する後ろ向き観察研究です。

4：収集した情報の公表

収集した情報は、匿名化し患者さん個人を特定できないようにして保存します。また研究成果を学会や学術誌に発表することがありますが、これにより患者さんの個人情報に外部に流出することはありません。

5：利益相反

本研究は特定の研究者や企業のために行うものではなく、利益相反はありません。

6：連絡、問い合わせ先

この研究に関してのお問い合わせは下記までお願いします。本研究の対象となることに同意されない場合はお申し出ください。研究対象から除外し収集したデータは破棄します。不同意による診療上の不利益はありません。

三菱京都病院 消化器外科 内藤雅人

〒615-8087 京都市西京区桂御所町1番地 電話 075-381-2111